

2008年12月25日

L A S - E 継続状況(二期目)の点検結果について

(通 知)

L A S - E 判定委員会

判定委員長 寺西 俊一

判定委員 山本 武

判定委員 杉本 裕明

判定委員 佐藤 徹

L A S - E 判定委員会において、継続的な取り組みの監査報告を受け、その継続状況を点検・検討した結果、以下の所見を通知します。

1. 運用自治体

秋田県能代市

2. 運用中の類型区分

エコアクション(環境活動)部門 第1ステージ

エコマネジメント(環境経営)部門 第1ステージ

エコガバナンス(環境自治)部門 第1ステージ

3. 点検の対象となる期間

平成19年11月～平成20年10月(第二期目)

4. 継続状況に関する所見

別紙にて通知いたします。

所見

<全般的な事項>

- ・ 平成 19 年度独自目標の監査結果によれば、旧二ツ井町との合併に伴う事務・作業量の増加が影響した項目が多く挙げられています。一方で、水道をはじめ使用削減が顕著に進んだ項目も少なくありません。これらを考えると、昨年度の判定委員会で指摘があったように、多くの項目で一律に「1%以上削減」としている現状は改めて見直しが必要と思われます。その際、各項目の達成／非達成の原因を把握した上での検討が重要です。今後は合併に伴う一時的な増加も一段落するため、これまで以上に意欲的な目標を掲げることが望まれます。
- ・ 平成 20 年度共通実施項目の監査結果は、いくつか改善を要する点が指摘されたとはいえ、全体として良く取り組まれている様子がうかがえます。今回から監査対象となった能代地区（合併前の能代市域）の教育施設については、監査報告書にあるとおり取り組みの伝達方法などを再検討し、改善を図っていただきたいと思います。

<監査について>

- ・ 共通実施項目の監査が、これまで同様に監査経験のある市民、公募市民、ISO14001 認証取得事業者など幅広い層による監査チームによって実施されたことは評価できます。この特徴をさらに伸ばし、例えば他の LAS-E 運用自治体が実施している「近隣自治体職員を監査チームのオブザーバーに加える」ことなどによって、より多彩な監査チームが編成されることを期待します。

<今後について>

- ・ 全体として安定したシステム運用が見られる現在、ともすればマンネリ化してしまうこともあり得ます。今年度指摘のあった個々の問題点について改善を図っていただくと同時に、第 1 ステージ中のレベルアップ項目（関係法令の洗い出し、職場単位の取り組み目標設定）の実施、さらには第 2 ステージへのステップアップの検討に入ることで、システム運用に新しい風を入れて活性化を促すことが望まれます。